

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

「公奉私滅」 「スト撲滅」

「労働者道」

国鉄「分割・民営化」阻止 / 三里塚二期着工粉碎

「奴隷の道、戦争の道」 「労使共同宣言・改革労協」弾劾

動労革マル・松崎は、来年四月一日以降の「新組合」を鉄労などとともにデッチ上げようとしている。驚くべきことに「新組合」なるものの綱領は「共産主義と対決する」「全民労協と連携する」を掲げた、まさに戦時中に労働者を侵略戦争へとかりたてた「産業報国会」そのものだ。「新組合」なるものがいかに反労働者的であるかを暴いて見よう。

新たな動労千葉・国労つぶし

「新組合」デッチ上げにあたって国鉄当局・動労・鉄労など「改革労協」が一体となった新たな国労・動労千葉つぶしが開始された。

「改革労協」は、来年四月一日に「全日本鉄道労働組合総連合会（鉄道労連）」をデッチ上げるために、十一月一日より各新会社の労組結成を「進める会」を発足させ、国労組合員にも脱退を呼びかけるため「国労などの二重加盟でもいい」などの策謀をめぐらしている。

「新会社」はじめから破綻

「鉄道労連」の六項目からなる運動基調において、

1. 新組合の理念・運動は「第二次労使共同宣言」に象徴されている。
2. 新組合は、新会社の経営基盤の安定にむけて全力をつくす。

としている。

いま、新会社の設立委員や会長の顔ぶれが発表され、東日本旅客鉄道会長に、国鉄再建監理委員会の委員長・亀井正夫（住友電工会長）自らが居すわろうとしている。国鉄をさんざん食い物にし、国鉄に膨大なツケを回しておきながら、この国鉄を「再建」するなどといっている

張本人だ。
これだけ見ても「新会社」なるものはデタラメきわまる分割・民営化のもとではじめから経営破綻は、すでにはつきりとしている。

組合自ら労働者を地獄へ

動労・松崎や鉄労・志摩らは、だから企業防衛主義をあり、スト権放棄を宣言した「第二次労使共同宣言」を新組合の理念として第一に掲げ、さらに、第二に「最重要課題」として「経営基盤の安定に全力」を掲げているのだ。

「新会社」の経営破綻は、すさまじい

合理化・首切り・低賃金・劣悪労働条件をまねくことは必至であり、まさに、資本になりかわって労働地獄に「新組合」自らが労働者をたたきこもうというのだ。

あらかじめ「ストをしなさい」と約束

「第二次労使共同宣言」では、「健全な運営が定着するまでは労働組合の争議の争議権の行使を自粛する」とし、新組合はスト権が与えられてもストをしなさいと宣言した。できてもしない、ありもしない「新会社」における労使関係で、あらかじめ資本・当局に「ストをしない」と宣言するような労働組合がどこにあるというのだ。（以下続く）